

射水みなとまちづくり方策



令和2年3月改訂

富山県射水市

目次

1	射水みなとまちづくり方策の趣旨	1
2	現況	3
2-1	新湊地区の現況	3
2-2	内川周辺の現況	6
2-3	バイエリア西地区・東地区の現況	7
2-4	新湊大橋完成による効果	8
3	上位計画	9
3-1	総合計画における射水バイエリア	9
3-2	都市計画マスタープランにおける射水バイエリア	10
4	バイエリアの土地利用活用方策	11
4-1	共通テーマ	11
4-2	土地利用の方向性	12
4-3	土地利用活用方策	13
5	バイエリアと内川周辺との連携方策	16
5-1	連携の方向性	16
5-2	バイエリアと内川周辺との連携方策	18
6	射水みなとまちづくり方策	19
7	方策の実現化に向けて	23
7-1	実現化に向けた考慮事項	23
7-2	実現化の方針	25

1 射水みなとまちづくり方策の趣旨

射水市臨海部に位置する富山新港東西両埋立地（ベイエリア西地区・東地区）では、これまで、年間 100 万人の集客を誇る海王丸パークをはじめとした各種施設が整備されてきたほか、平成 24 年秋には、日本海側最大の規模を誇る新湊大橋が完成し、多くの来訪者を迎えるなど、物流、交通、観光等、多岐の方面に効果が現れている。

「射水みなとまちづくり方策」は、新湊大橋の完成を地域活性化のための大きなチャンスと捉え、周辺の未利用地の活用と、新湊地区市街地と東西両埋立地＝両ベイエリアとの連携による地域活性化の方策について策定したものであり、みなとを中心とした新しいまちづくりの指針である。



対象地位置図

定義

「バイエリア西地区」…新湊大橋から新湊漁港（西地区）までの区域

「バイエリア東地区」…新湊大橋から東側の海老江海浜公園までの区域

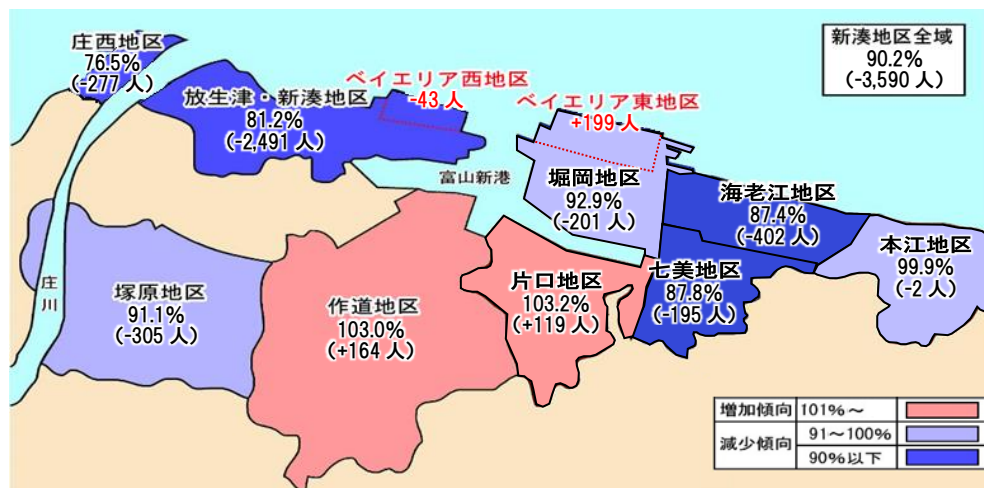
※「バイエリア西地区」と「バイエリア東地区」を合わせた、臨海部を「射水バイエリア」と称し、「内川周辺」も包含しながらPRすることとする。

2 現況

2-1 新湊地区の現況

(1) 人口

- 人口は 33,023 人 (R1.12) であり、昭和 29 年をピークに減少傾向にあり、特に内川周辺では著しく人口が減少している。
- 令和元年 12 月における高齢人口 (65 歳以上) の割合は 33.1% (H21.9 は 26.5%)、年少人口 (15 歳未満) の割合は 11.0% (H21.9 は 13.1%) と少子高齢化が進行している。



新湊地区の人口増減

射水市全域

92,883 人 96.3%

(-3,596 人)

小杉地区	大門地区	大島地区	下地区
33,982 人 100.9% (+305 人)	12,848 人 96.5% (-463 人)	11,204 人 103.6% (+386 人)	1,826 人 88.6% (-234 人)

過去10年間(H21.12-R1.12)の地区別人口推移 ※H21.12 の人口を 100%とした割合及び増減

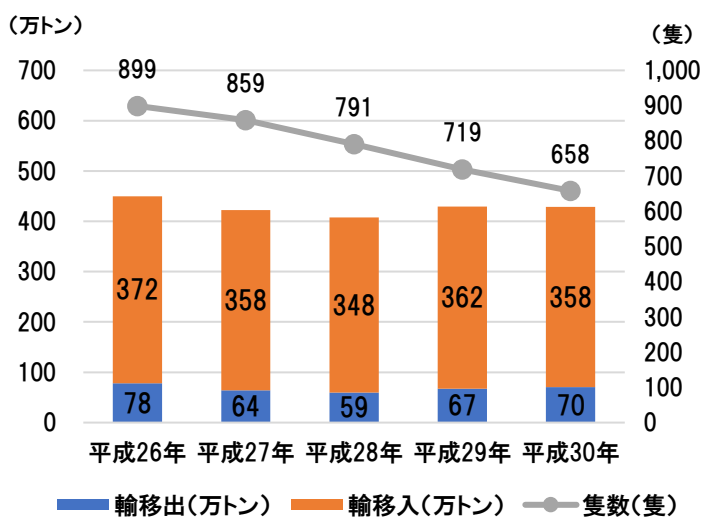
人口は外国人を含む

ベイエリア西地区・東地区はそれぞれの地区の内数

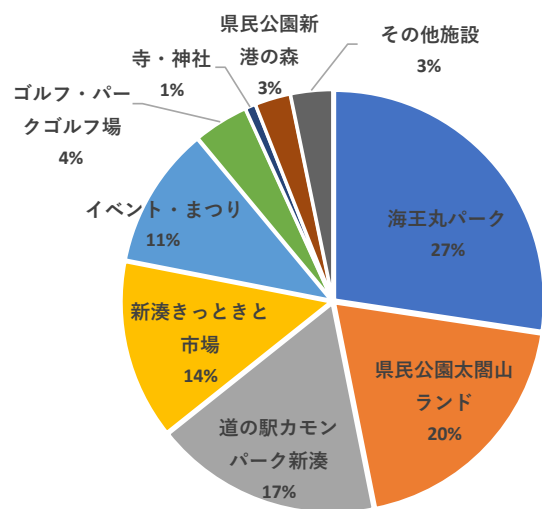
資料:住民基本台帳、外国人登録資料

(2) 産業

- ・ 事業所数及び従業者数は減少傾向にある。
- ・ 漁業が盛んで、新湊漁港で水揚げされる魚種は日本有数であり、豊富な水産資源を背景に市場では1日2回のセリが行われている。
- ・ 国際拠点港湾である伏木富山港新湊地区（富山新港）は環日本海諸国との貿易が盛んであり、年間約430万トン（平成30年）の貨物が取り扱われている。
- ・ 富山新港の背後地には臨海工業地帯があり、アルミや木材などを扱う多くの企業が立地している。
- ・ 新湊地区の観光入込客数は年間約277万人であるが、その約7割が県内からの入込客であり、92%が日帰りの入込客である。
- ・ 海王丸パークには市内への観光入込客の約4割を占める年間約100万人が訪れている。



富山新港の入港隻数と輸移出入の推移
資料：富山県港湾課



施設・市内イベント別の観光入込客数の割合 (H30)
資料：観光入込調査

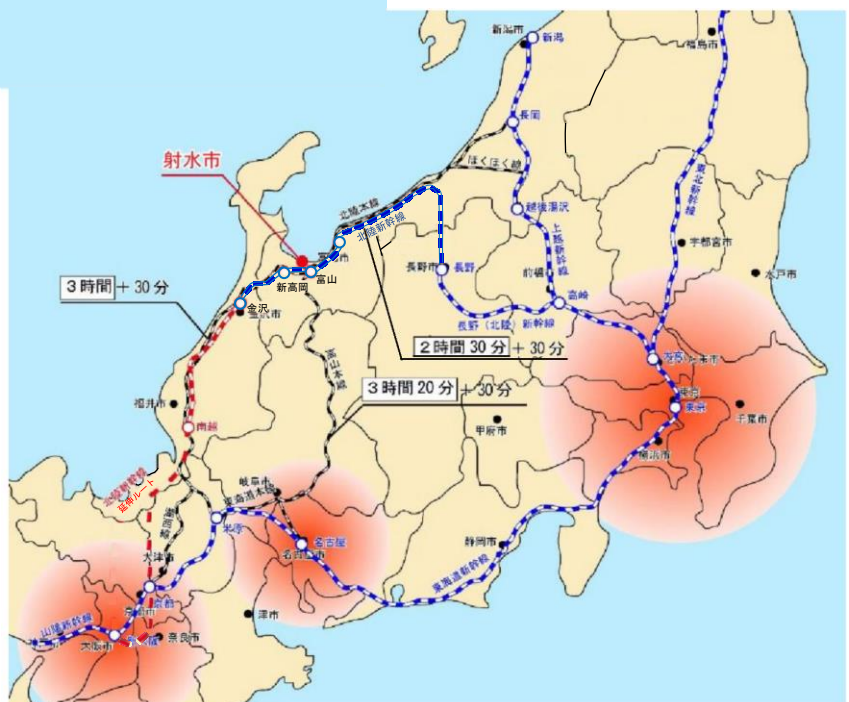
(3) 交通

- ・ 南北の幹線道路として国道 472 号があり、国道 8 号と北陸自動車道小杉 IC を連絡している。
- ・ 国道 8 号や北陸自動車道小杉 IC からバイエリアへのアクセスは良好であるが、内川周辺の道路は細街路が多い。
- ・ あいの風とやま鉄道高岡駅と連絡する路面電車「万葉線」が通っているほか、全域を網羅するコミュニティバスが運行されている。
- ・ 平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業により、首都圏との時間距離が短縮された。また、令和 5 年春には敦賀までの延伸が予定されており、近畿圏との時間距離も短縮される。
- ・ 新湊大橋の車道部が平成 24 年 9 月に、歩道部「あいの風プロムナード」が平成 25 年 6 月に開通し、東西のバイエリアが繋がった。
- ・ 東海北陸自動車道の全線 4 車線化の見通しが立ち、事故抑制効果や中京圏との交通・物流の一層の活性化が期待される。

高速道路による 3 大都市圏との連絡



鉄道による 3 大都市圏との連絡



2-2 内川周辺の現況

- ・ 空き家が増えてきているが、空き家を活用した飲食店や民泊施設などの店舗の開業も見られる。
- ・ 新湊曳山祭りを中心に、年間約13万人余の観光入込がある。
- ・ 内川周辺は古くから栄えたまちであり、神社仏閣や史跡が多く点在している。
- ・ 市街地を東西に流れる内川は、市民の暮らしと営みの場であると同時に、瓦葺きの日本家屋が整然と立ち並ぶ、かつての日本の港町風情を感じられる数少ない場所として、広く注目を集めている。
- ・ 新湊漁港に水揚げされる豊富で新鮮な水産資源を背景に、内川周辺を中心に割烹・寿司店などの飲食店がある。



(放生津八幡宮)

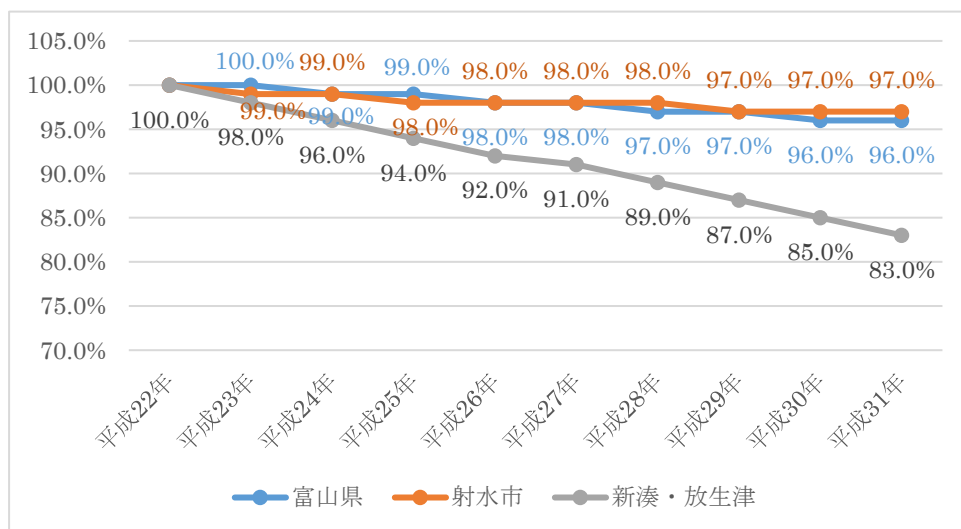


(内川)



(放生津曳山)

内川周辺の歴史文化資源

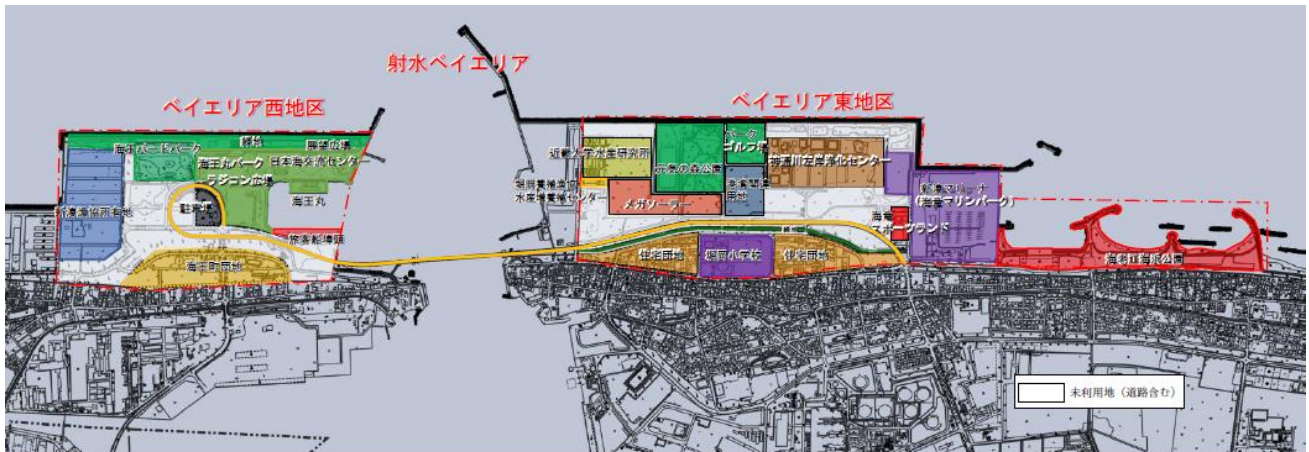


内川周辺の人口推移

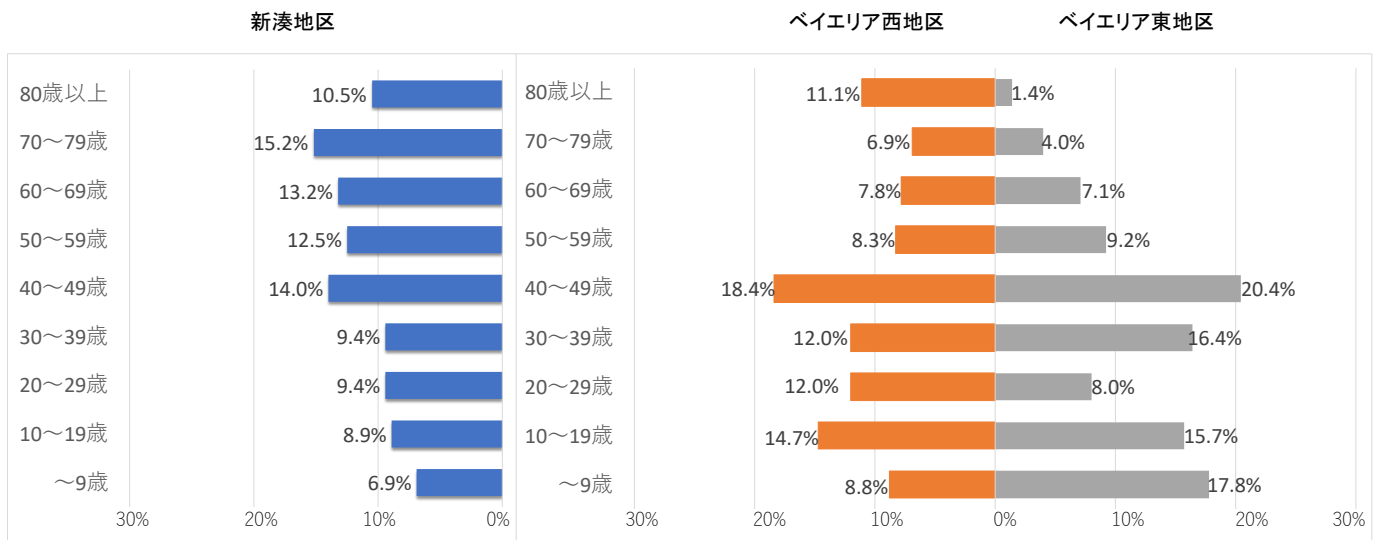
資料：富山県人口移動調査（各年4月1日現在）

2-3 バイエリア西地区・東地区の現況

- ・ バイエリア西地区・東地区では、これまで海王丸パーク、元気の森公園、太陽光発電、新湊マリーナ、海老江海浜公園など各種施設整備や環境整備がされてきたが、まだ未利用地が残っている。
- ・ 新たな住宅の供給により、20～40代とその子ども世代に当たる年齢層の割合が高い。
- ・ バイエリア西地区においては、都市計画地区計画を変更し単独店舗の進出が可能となっている。
- ・ 平成24年9月に、東西のバイエリアを結ぶ新湊大橋が供用開始した。



バイエリアの施設現況



バイエリア西地区・東地区の年齢階層別人口構成

2－4 新湊大橋完成による効果

- ・ 市はもとより県を代表するランドマークとなり、多くの観光客が来訪している。特に海王丸パークの入込数は年間約 100 万人に上り、平成 30 年度は過去最高となる 1,178,900 人であった。
- ・ 2015 年から開催されている県内最大規模のマラソン大会「富山マラソン」では、毎年県内外から 1 万人を超えるランナーが参加し、港に賑わいを創出している。また、普段は車両しか通れない新湊大橋を走れることが、ランナーの参加理由や楽しみの一つになっている。
- ・ 東西地区をつなぐ動線が確保されたことで、両地区間の交通の便が向上されたことはもとより、市の環状道路網の一部を担う路線となり、港湾物流の円滑化・効率化が図られた。また、両地区の一体感の醸成にも寄与している。（交通量：約 7,800 台／日（H30））

3 上位計画

3-1 総合計画（平成26年策定）における射水ベイエリア

総合計画においては、「みなとまちづくり方策の推進」として、新湊大橋の完成に伴い来訪者が増加しているベイエリア西地区・東地区の一体的な開発と貴重な観光・歴史資源が残されている内川周辺とを連携し、周辺相互の活性化を図ることとしている。

（以下、射水市総合計画 第4部「潤いのある安心して暮らせるまち」 第2章「快適で利便性の高いまちづくり」 第2節「港湾機能の整備促進とみなとまちづくり」中の【施策の内容】第3「みなとまちづくり方策の推進」を抜粋）

1 景観を重視したベイエリア西地区・東地区の新たなまちづくりとにぎわいの創出

（1）特色あるレジャー・娯楽サービス等の提供

- ア 新鮮で種類が豊富な魚介類の提供
- イ 水辺空間の活用や憩いの空間の創出
- ウ 既存施設の機能拡充
- エ 東西埋立地（ベイエリア西地区・東地区）への宿泊施設、温泉施設、飲食店等の滞在型施設の誘致
- オ 大型商業施設や結婚式場等の誘致による交流人口の増加

（2）健康で心癒される市民生活を支援する機能を集積

- ア パークゴルフ等日常的にできる軽スポーツ施設や冬期間も利用できるフットサル、バスケットボールコート等の屋内施設等を備えた憩いの空間の提供

（3）海洋や環境に関する研究機能の集積や研究機関との連携

- ア 環境面での先導的地域を目指すための研究推進
- イ 海洋水産技術に関する研究の推進及び実用化
- ウ 景観を重視した緑豊かで良好な街並み形成のための施策の展開

2 東西埋立地と内川周辺とを連携

（1）新湊地区市街地の資源活用による集客力の向上や東西埋立地との連携強化

- ア 来訪者が東西埋立地で駐車し、公共交通機関で市街地へ向かう誘導の促進
- イ 東西埋立地と市街地を結び広がる観光情報等の提供
- ウ 東西埋立地と市街地を結ぶ公共交通機関の充実

3-2 都市計画マスタープラン（令和2年度策定予定）における射水ベイエリア

都市計画マスタープランでは、射水ベイエリアは「北部臨海地域」に区分され、地域の主要課題の一つに射水ベイエリア周辺の交流機能の充実が挙げられている。

北部臨海地域の方向性を「海・川の水辺、歴史・文化の魅力が輝き、活気ある産業と交流でにぎわう「みなと」まち」としている。

（以下、射水市都市計画マスタープラン地域別構想 第8章 地域区分別のまちづくりの方針
1 北部臨海地域 1-5 地域の方向性から抜粋）

1. 住む人や訪れる人の多様な交流が生まれる、にぎわいのあるまちづくり

クロスベイ新湊や、海の玄関口である射水ベイエリアに集積する交流・レクリエーション施設、既成市街地内に点在する豊かな歴史・文化・自然の資産を生かし、人々の多様な交流が生まれる、にぎわいのあるまちづくりを推進します。

2. 情緒豊かな歴史・文化を背景に、快適に住み続けられるまちづくり

古くから発展してきた歴史ある港町という地域特性を生かしながら、公共施設等の老朽化や自然災害への対策、買物等の生活利便性の維持・充実を図り、誰もが安全・快適に住み続けられるまちづくりを推進します。

3. 港を生かした産業が活発な、活力あふれるまちづくり

富山新港と新湊漁港の2つが近接して立地する地域特性を生かした港湾都市として、県内最大級の大規模な工業や物流業務施設、活気ある漁業や水産加工業等が集積する、産業がまちに活力と地域の活性化をもたらすまちづくりを推進します。

4 バイエリアの土地利用活用方策

4-1 共通テーマ

バイエリアの土地利用活用方策に関する共通テーマを以下のとおり設定する。



バイエリアの土地利用活用方策の共通テーマ

①環境との調和や②海及び海辺への意識を土台に、③バイエリアの特長を活かし、環日本海の中の射水という視点から、国内外の人・文化の結節点の形成を図る。

① 環境との調和

- ・ これまでの内川周辺に不足していた緑やゆとり空間を十分に取り込み、自然環境に配慮した快適で心癒されるまちの形成を図る。

② 海及び海辺への意識

- ・ 新湊地区の発展の礎となった海や港といった水辺空間を最大限に活かしたまちの形成を図る。

③ バイエリアの特長

- ・ 射水みなとまちづくり方策策定に当たり、活かすべきバイエリアの特長は以下のとおりである。

既存の中核的資源及び特長

〔景観・環境〕

- ・ 海や港といった水辺空間と新湊大橋
- ・ 海のロマンを喚起させる帆船海王丸
- ・ 内川周辺における観光・歴史的資源（内川の風景や特色のある橋、神社仏閣など）

〔水産資源・食文化〕

- ・ 新鮮で種類が豊富な水産資源を利用した食文化（寿司・割烹など）

〔公共交通機関〕

- ・ 万葉線とコミュニティバスで充実した公共交通

積極的活用・展開が期待される資源及び特長

- ・ 環日本海諸国との交流

4-2 土地利用の方向性

(1) 土地利用の方向性

既存施設を含む周辺地域の状況や我々を取り巻く社会の情勢を踏まえ、バイエリア西地区・バイエリア東地区の土地利用の方向性を以下のとおり設定する。

<バイエリア西地区の土地利用の方向性>

^{にぎ}賑わいのある交流空間

レジャー・娯楽などについて特色あるサービスを提供し、国内外に「射水」を発信するための拠点として、^{にぎ}賑わいのある交流空間の形成を目指す。

<バイエリア東地区の土地利用の方向性>

近未来を考えた高質空間と^{にぎ}賑わいのある交流空間

持続可能な資源循環型社会の実現に向け、海洋や環境に関する研究機能の集積を図るとともに、健康的で心癒される市民生活を支援するレクリエーション機能に付随する^{にぎ}賑わいのある交流空間を併せ持った近未来を考えた高質空間の形成を目指す。

(2) 土地利用活用方策策定における考慮事項

土地利用活用方策策定に向けて、以下の事項を考慮するものとする。

- ① 内川周辺との連携
- ② 景観を活かした機能配置
- ③ バイエリア東西の連携

① 内川周辺との連携

バイエリア東西が、貴重な観光資源が残されている内川周辺と連携し合うことにより、バイエリア東西への来訪者が内川周辺へ誘導され、結果として射水バイエリア全体の活性化が期待できることから、バイエリア東西と内川周辺との連携を重視した土地利用活用方策を考えるものとする。また、鉄道駅とクロスベイ新湊やバイエリアを結ぶ観光路線の新設・強化を進めるとともに、海王丸パーク周辺を周遊するため、万葉線の延伸その他の周遊手段について調査・研究していくことから、土地利用活用方策を検討するに当たっても配慮する必要がある。

② 景観を活かした機能配置

バイエリア東西の魅力の基盤は、帆船海王丸、新湊大橋、そして 3000 メートル級の山々が連なる立山連峰などが織り成す景観であることから、機能（施設）を配置する際には、これらの景観を活かした機能配置が必要である。また、バイエリア東西における良好な景観の形成に向け、可能な限り多くの緑地を配置するとともに、施設周辺についても積極的な緑化を行い、緑あふれる景観の形成を図る必要がある。

なお、策定した方策の実現については、取組の長期化が予想されることから、当面の間、空地となる土地の取扱いについても十分配慮する必要がある。

③ 東西の連携

新湊大橋の完成により、バイエリア東西間の移動が容易になったことから、バイエリア東西が一体となった、一大レクリエーション観光地として、機能の充実と利用・交流促進を積極的に進めなければならない。

4－3 土地利用活用方策

(1) バイエリア西地区の土地利用活用方策

- ◇ 新鮮で種類が豊富な魚介類の提供や新湊大橋などの景観を背景とした集客力の向上
- ◇ 旅客船バースの拡充強化による集客力の向上
- ◇ 公共交通の充実による交通アクセスの向上

① 交通機能

- ・ 内川や新湊大橋などの魅力を活かした新たな交通手段の提供
- ・ 公共交通機関と連携した駐車場の整備（内川周辺への連絡機能の向上を考慮）
- ・ 公共交通機関の利便性向上
- ・ 旅客船バース拡充強化によるクルーズ船や旅客船航路の誘致

② 集客・宿泊滞在機能

- ・ 新湊の新鮮で種類が豊富な魚介類や海辺の環境の提供
- ・ 帆船海王丸や新湊大橋、立山連峰が織り成す景観及び海辺の雰囲気の利用（オープンカフェ、温浴施設、結婚式場、宿泊施設など）
- ・ 環日本海諸国の文化、交流をテーマとした展開
- ・ 漁業との連携（セリ見学通路・夕市など即売場）

③ 情報提供機能

- ・ 観光案内所による新湊大橋、バイエリア東西、内川周辺など地域の情報を提供
- ・ サテライトスタジオの誘致による情報発信

④ 居住機能

- ・ 新湊大橋や公共交通の利便性を活かした集合住宅やケアハウス

⑤ レクリエーション機能

- ・ 水辺空間の活用や憩いの空間の創出
- ・ 既存施設（海王丸パーク）の機能拡充
- ・ 緑地内の遊具やドッグランなどの整備

(2) ベイエリア東地区の土地利用活用方策

- ◇ 健康的な生活環境の追求
- ◇ 持続可能な資源循環型社会の実現に向けた取り組み
- ◇ 健康的で心癒される生活環境の提供
- ◇ 持続可能な資源循環型社会の実現に向けた環日本海における拠点形成

① 健康癒し機能

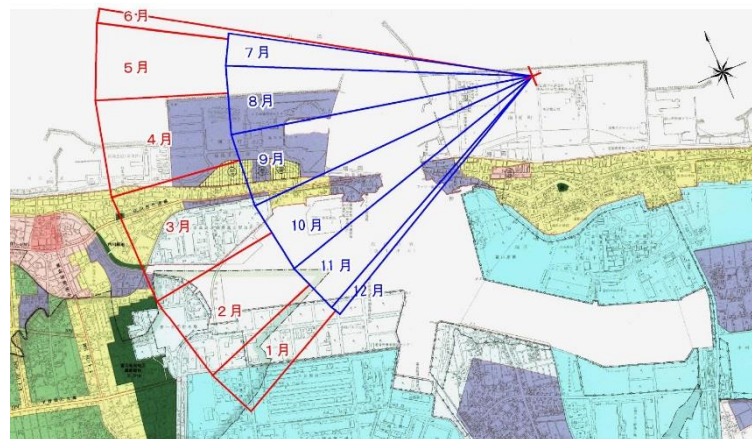
- ・ 市民が日常的に利用するパークゴルフなどの軽スポーツ機能や憩いの空間の提供
- ・ 市民の健康づくりのための施設（海洋深層水を活用）の提供
- ・ 環日本海諸国の手法を取り入れた健康癒しサービスの提供

② 研究機関との連携機能

- ・ 海洋水産技術に関する研究の推進及び実用化

③ 眺望機能

- ・ あいの風プロムナードからの眺望と併せ、海王丸パーク側からの新湊大橋への眺望とは違った、夕日と海と大橋の眺望を提供し、親しまれるようにする。



眺望点から見た日没の位置

④ 集客機能

- ・ マリンカフェなどを活用した賑わいの創出
- ・ 多目的広場、ドッグランなど整備
- ・ 人工芝グラウンドやクラブハウスを備えるフットボールセンターの整備
- ・ 海老江海浜公園東側の整備

⑤ 体験型宿泊施設

- ・ 漁業体験、マリンレジャーやアウトドア等が楽しめる体験型宿泊施設の整備
- ・ フットボールセンターで合宿練習する選手・指導者や県外から来訪する新湊マリナー利用者等も宿泊できる施設とする。

(3) 遊休地の土地利用活用方策

東西のベイエリアに残る多くの未利用地には雑草が繁茂し、景観・環境上問題があるため、現在その対策が求められている。しかし、これらの未利用地を短期間で利活用することは困難であり、今後、土地利用が進む過程においても当面の間、遊休地として残る箇所も残存すると考えられる。

そのため、このような遊休地の利用活用方策について、以下のとおり提案する。

① 適切な管理と活用

遊休地となる箇所については、雑草の繁茂や廃棄物の不法投棄を防止するなど、適切な維持管理を行うものとする。

また、ベイエリアで行われるイベントには多くの来訪者があり、広大な駐車スペースが必要となっている。現在は西側のみで駐車スペースを確保しているが、新湊大橋の完成による東側との時間距離の短縮に伴い、今後は東側に駐車スペースを求めることが可能となる。加えて、暫定的な方策として、市民のコミュニティ活動の場としての活用（市民花壇）も考えられる。

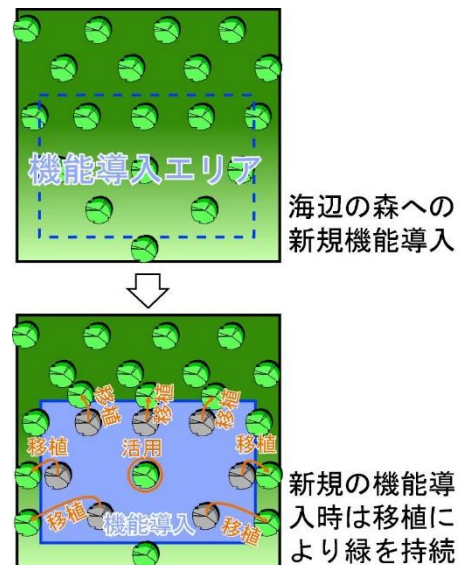
遊休地の方策

- ・ 周辺環境の悪化を防ぐ適切な管理
- ・ イベント開催時の臨時駐車スペースとしての活用
- ・ 市民のコミュニティ活動の場としての活用（花壇づくりなど）

② 海辺の森づくり

本方策では両地区の土地利用の土台として“環境との調和”を位置付けており、その一環として、遊休地に海辺の森を形成するものとする。海辺の森は、緑のボリュームに、地被（芝生など）－疎林－自然林といった変化を持たせることで良好な環境を創出し、海王町の海王バードパークと海竜町の元気の森公園の二つの「緑の核」と一体となり、心癒される空間や市民の健康づくりのための空間を形成するものである。

また、植栽地に、他の機能の導入を図る場合には、樹木を移植するなど、一定量の緑地を確保するための配慮が必要である。なお、新湊大橋沿線については、大橋への景観を良好に保つため、海辺の森を積極的に配置することとする。



5 ベイエリアと内川周辺との連携方策

5-1 連携の方向性

(1) 連携の視点

ベイエリアと内川周辺との連携を図るため、以下の視点で必要となる事項を整理した。

① 人や情報の連携

平成14年3月策定の「新湊市中心市街地活性化基本計画」及び平成15年3月策定の「新湊TMO構想」で提案された内川周辺の活性化に向けた方策を踏まえ、ベイエリアと内川周辺との「人や情報の連携」がスムーズに行われるために必要な事項は次のとおりである。今後、令和元年11月に設立された「新湊地区まちづくり協議会」等のまちづくり団体と連携を図りながら、射水ベイエリアの魅力向上に努める。

○ 魅力ある内川周辺のまちづくり及びPR

内川の魅力向上、内川周辺の歴史・文化・景観の保全と活用、内川周辺の観光・歴史的資源の掘り起こし、情報発信など

○ 連絡手段の整備による移動抵抗の低減

連絡手段（万葉線・コミュニティバスなど）の整備

- ・ ドラえもんトラムや企画電車の活用と路線の延伸等の調査研究
- ・ コミュニティバス：他の公共交通とのスムーズな乗り継ぎの確保
- ・ 観光周遊バス：新幹線駅や小杉駅、クロスベイ新湊及びベイエリアを結ぶ観光に特化した周遊バスの運行を検討
- ・ 遊歩道：美しい風景を楽しみながら歩ける遊歩道及び案内誘導設備の整備
- ・ 自動車等の動線整備：駐車場・道路などの整備（ベイエリアと内川周辺が一体となったまちの形成）
- ・ 潮風を感じながら移動できるレンタサイクル
- ・ 観光船：ベイエリア～内川の2次交通としての利用を促進

共通・企画乗車券の導入

- ・ 多様な乗り物を選択できる楽しさやベイエリア・内川周辺での食事との組み合わせによる魅力をアピール

② 機能の連携

ベイエリアと内川周辺に不足している機能を相互に補完し、ベイエリアと内川周辺が一体となったまちを形成するために必要となる事項について整理した。

○ ベイエリアに求められる機能

内川周辺を訪れる観光客に対する玄関口としての機能

- ・ 内川周辺来訪者の駐車場機能
- ・ 内川周辺の情報提供及び内川周辺への誘導機能

内川周辺のオアシスとしての機能

- ・ 内川周辺に居住、就業する人々の憩いや癒しの場としての機能

○ 内川周辺に求められる機能

ベイエリアとは方向性の異なる観光機能

- ・ 内川周辺の風景や古い歴史、文化などを活かした観光・集客機能

ベイエリアに少ない都市機能

- ・ 商業や行政によるサービス提供機能

(2) 連携の方向性

新湊大橋の完成に伴う来訪者の増加に鑑み、バイエリアと内川周辺との連携の方向性を以下のとおり設定する。

各地域の資源を活かした 連携による一体的で活力のあるみなとまちの形成

バイエリアと内川周辺にある既存施設や観光・歴史的資源を見直し、それぞれの持つ特長を活かして相互補完することにより、一体的で活力のある地域の形成を図る。

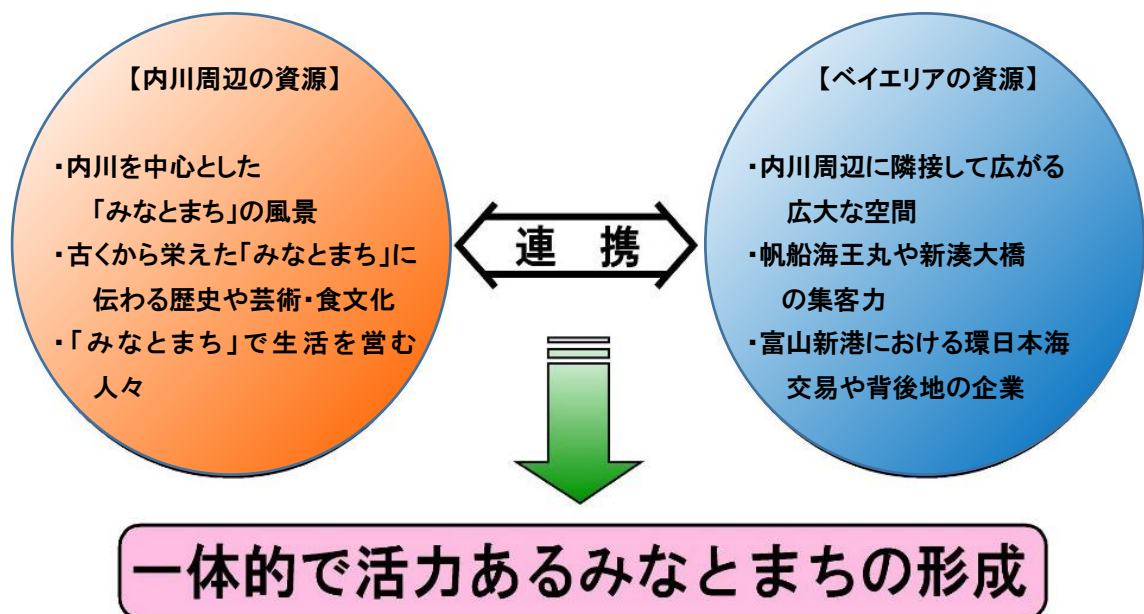
なお、連携方策の策定に当たり、着目する主要な資源の例を以下に挙げる。

① バイエリアの資源

- ・ 内川周辺に隣接して広がる広大な空間
- ・ 帆船海王丸や新湊大橋の集客力
- ・ 富山新港における環日本海交易や背後地の企業

② 内川周辺の資源

- ・ 内川を中心とした“みなとまち”の風景
- ・ 古くから栄えた“みなとまち”に伝わる歴史や芸術、食文化
- ・ “みなとまち”で生活を営む人々



5-2 ベイエリアと内川周辺との連携方策

(1) 連携方策の視点

- ◇ 内川の景観を中心とした資源活用による集客力の向上
- ◇ ベイエリアと内川周辺との連携し、一体となった活力ある地域の形成

- ① **集約機能（東西バイエリア地区）**
 - ・ 内川周辺来訪者の駐車場機能を果たし、公共交通を使い内川周辺へ誘導
 - ・ 内川周辺を含めた観光情報などを集中的に提供

- ② **空間提供機能（東西バイエリア地区）**
 - ・ 新湊の新鮮で種類が豊富な魚介類や海辺の環境を活かした空間を提供

- ③ **集客機能（内川周辺地区）**
 - ・ 内川の魅力や内川周辺の資源を活用
 - ・ 内川沿いの街並み整備と新たなサービスの展開

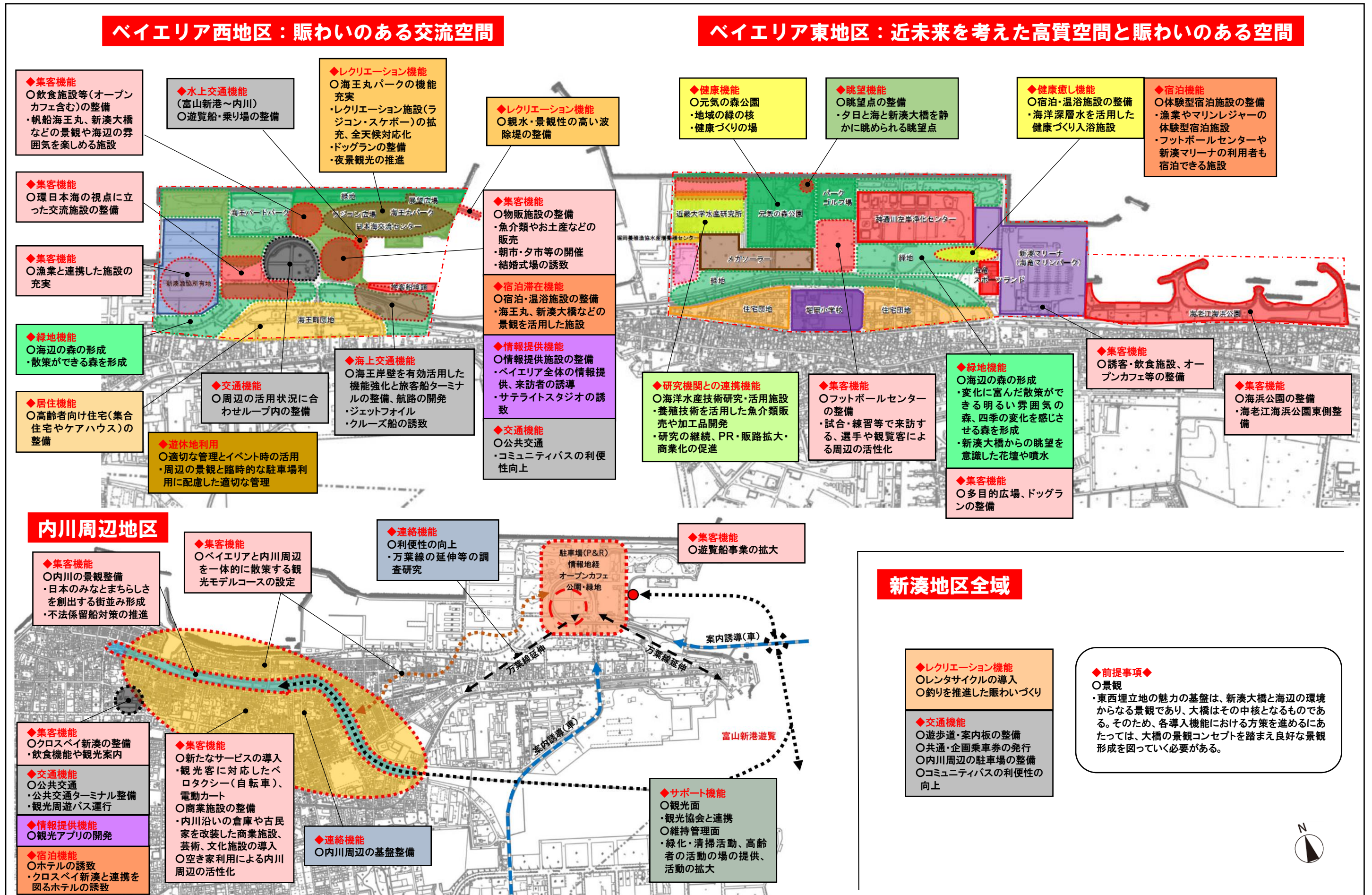
- ④ **サポート機能（内川周辺地区）**
 - ・ 市民の力をまちづくりに活用
 - ・ 高齢者の技術や職人の技をまちづくりに活用

- ⑤ **連絡機能（両地区）**
 - ・ 内川周辺と東西バイエリアを連絡する新たな移動手段を提供
 - ・ 既存の移動手段の利便性を向上

- ⑥ **学習機能（東西バイエリア地区）**
 - ・ 研究機関や周辺企業を学習の場として提供

6 射水みなとまちづくり方策

ベイエリアの土地利用活用方策及びベイエリアと内川周辺との連携方策に基づき、射水みなとまちづくり方策について以下のとおり整理する。



地区	導入機能	導入施設	概 要	今後の方向性＝骨子＝
ベイエリア西地区	交通機能	駐車場	・ 周辺の活用状況に合わせ内川周辺の代替駐車場として整備	● ループ内西側半分を整備
	水上交通機能	遊覧船・乗り場	・ 富山新港周辺及び内川周辺の水上交通としての機能を担う。	● 交通手段としての検討 ● ベイエリア～内川の観光船または海上タクシーを２次交通とする。
	海上交通機能	海王岸壁を活用した機能強化と旅客船ターミナル・航路誘致	・ クルーズ船及び旅客船航路を誘致	● 和倉・奥能登・佐渡へのジェットフォイルや旅客船航路を誘致 ● クルーズ船の誘致で実績づくり
	集客機能	物販施設	・ 来訪者に魚介類やお土産などを販売する施設。朝市・夕市等の開催	● 海王丸パーク施設連絡会・県と調整し、民間事業者進出を促す。 ● 魚市場見学通路の開設を機に、市場内で夕市など即売場を開設
	集客機能	飲食施設等 （オープンカフェ含む）	・ 団体観光客の立ち寄りにも対応した飲食サービスを提供する施設 ・ 帆船海王丸、新湊大橋などの景観や海辺の雰囲気を楽しめる施設 ・ 環日本海諸国の映画・演劇・生活・文化などを体験や料理・アルコールを提供する施設 ・ 環日本海の視点に立った展示・普及・研究及び対岸諸国や沿岸自治体を照会するなど日本海交流センターの展示を充実させる。	● 海王丸パーク施設連絡会・県と調整し、民間事業者進出を促す ● 総帆展帆の日を盛り上げる企画の推進 ● 環日本海諸国の料理・アルコールを提供する施設 ● 環日本海諸国の映画・演劇・生活・文化などを体験する施設 ● 環日本海の視点に立った展示・普及・研究及び対岸諸国や沿岸自治体との交流拠点
	集客機能	結婚式場	・ 結婚式場の誘致	● 結婚式場の誘致
	集客機能	施設相互利用	・ 海王丸と関連施設の相互利用促進	● 海王丸と関連施設の相互利用促進 ● 「夕べの集い」コンサート等の企画
	集客機能	漁業と連携した施設	・ 蓄養技術を活用した釣堀や新湊漁港に水揚げされる魚を紹介する施設	● 蓄養技術を活用した釣堀や新湊漁港に水揚げされる魚を紹介する水族館 ● 市場に見学通路ができたのでPRし、大いに利用してもらう。
	宿泊滞在機能	宿泊・温浴施設	・ 市域に不足している来訪者の宿泊滞在施設 ・ 海王丸、新湊大橋などの景観を活かした温浴施設	● 市域に不足している来訪者の宿泊滞在施設 ● 海王丸パーク施設連絡会・県と調整し、民間事業者進出を促す。
	情報提供機能	情報提供施設	・ ベイエリア全体の情報提供を行い、来訪者の誘導を行う。 ・ サテライトスタジオの誘致	● 地域放送局による情報発信 ● いみず観光情報館の有効活用
	居住機能	高齢者向け住宅	・ 高齢者を対象とした集合住宅やケアハウス ・ 今後も民間活力導入	● 民間で供給されており、今後も民間活力導入
	レクリエーション機能	緑地・公園	・ 憩いの空間となる緑地や公園を各所に配置	● 県の事業後の利用状況見ながら検討
	レクリエーション機能	親水施設	・ 親水・景観性の高い波除堤の整備	● 親水・景観性の高い波除堤の整備
	レクリエーション機能	海王丸パークの機能充実	・ レクリエーション施設（ラジコン・スケボー）拡充整備し、全天候対応化を図るとともに、夜景観光を推進する。	● レクリエーション施設に多目的広場を整備し、全天候対応化を図る ● ドッグランなど ● イルミネーションの充実、夜景観光の推進
	遊休地利用	適切な管理とイベント時の活用	・ 周辺の景観と臨時的な駐車場利用に配慮した適切な管理の実施と市民による花壇整備などの活用	● 当面環境整備を行い、民間・県・住民と連携協力し利活用
	緑地機能	海辺の森形成	・ 地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、夕日を望む芝生広場と森林浴・散策ができる森を形成	● 地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、夕日を望む芝生広場と森林浴・散策ができる森を形成 ● バードパークは大切。周辺整備を（散策道路）（土盛りのところ）
	連絡機能	万葉線の延伸	・ ベイエリア西地区における万葉線の利便性向上を図る、路線の延伸等の調査研究	● ベイエリア西地区における万葉線の利便性向上を図る、路線の延伸等の調査研究

地区	導入機能	導入施設	概 要	今後の方向性＝骨子＝
ベ イ エ リ ア 東 地 区	健康機能	元気の森公園の充実	地域の緑の核として、市民の日常的な健康づくりに寄与	- 高質な（３６ホールに増設、休憩施設増設中）パークゴルフなどの軽スポーツ機能や憩いの空間を提供 - 緑化の推進（花を植える）
	健康癒し機能	宿泊・温浴施設	海洋深層水を活用した健康づくりを行う入浴施設、海洋エステ、環日本海諸国の特徴あるマッサージやサウナなども検討	- 海洋深層水を活用した健康づくりを行う入浴施設、海洋エステなどの癒し施設（滑川市でタラソピア） - 環日本海諸国の特徴あるマッサージやサウナの体験施設（船員の利用を促す）
	宿泊機能	宿泊施設（体験型）	- 漁業体験、マリンレジャーやアウトドア等が楽しめる体験型宿泊施設（コテージ・別荘） - フットボールセンター等の周辺施設の利用者も宿泊する施設	- 漁業体験やマリンレジャーが楽しめる体験型宿泊施設（コテージ・別荘） - フットボールセンターで合宿練習する選手・指導者や県外から来訪した新湊マリーナ利用者等も宿泊する施設
	健康機能	海を使った取り組み	引き続き継続する	- 富山マラソンの実施 - 新湊大橋車道部のイベント活用（ウォーキング大会実施） - 全国大会規模のヨットレース等の誘致
	研究機関との連携機能	海洋水産技術研究・活用施設	養殖技術を活用した魚介類販売や加工品開発（稚魚のオーナー制度などによる活用）	- 研究を継続し、ＰＲ・販路拡大・商業化を目指す。 - 都内にある富山・射水ゆかりの店にメニュー化
	集客機能	多目的広場など	多目的広場、ドッグランとして利用（集客機能を持たせることに）	多目的広場、ドッグランとして利用（集客機能を持たせることに）
	緑地機能	海辺の森形成	地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、良好な景観の緑地や散策ができる明るい雰囲気のある森、四季の変化を感じさせる森を形成。新湊大橋からの眺望を意識した花壇や噴水などによる癒しの空間を形成。	地被－疎林－自然林といった変化にとんだ緑地を整備し、良好な景観の緑地や散策ができる明るい雰囲気のある森、四季の変化を感じさせる森を形成。新湊大橋からの眺望を意識した花壇や噴水などによる癒しの空間を形成。
	眺望機能	眺望点	夕日と海と新湊大橋を静かに眺められる眺望点の整備・ＰＲ	あいの風プロムナードとともにＰＲ
	集客機能	誘客・飲食施設 オープンカフェ	マリンカフェ等を活用した賑わいの創出（バイエリア東地区にも宿泊施設・飲食店・物販施設など集客機能を持たせる）	マリンカフェ等を活用した賑わいの創出（バイエリア東地区にも宿泊施設・飲食店・物販施設など集客機能を持たせる）
	集客機能	フットボールセンター	- 人工芝グラウンド - 観覧スペースを設けたクラブハウスの整備	試合や練習等で来訪する、選手や観覧客による周辺の活性化
	集客機能	海浜公園	海老江海浜公園東側の整備	海老江海浜公園東側の整備

地区	導入機能	導入施設	概 要	今後の方向性＝骨子＝
内 川 周 辺	集客機能	内川の景観整備など	日本のみなとまちらしさを創出する街並み形成（「建築住民協定」の促進、防波堤を利用した自転車道、漁船・プレジャーボートのすみわけ）	- 日本のみなとまちらしさを創出する街並み形成整備内川の底浚いによる環境整備 - 富山県景観条例を活用した「景観づくり住民協定」の促進 - 板壁の修復 - 不法係留船対策の推進
	連絡機能	内川周辺基盤整備など	- 旧漁港の眺望P R - 内川周遊基盤整備（浮桟橋設置し周遊性確保）	- 旧漁港の眺望P R - 内川周遊基盤整備（浮桟橋設置し周遊性確保）
	集客機能	遊覧船事業の拡大	内川での遊覧船事業の拡大（ランチ・スイーツ・ディナー）	内川での遊覧船事業の拡大（ランチ・スイーツ・ディナー）
	集客機能	観光モデルコースの設定	まちなかの資源の掘り起こしやストーリーづくりによる観光モデルコースの設定と観光ボランティアの協力	- 新幹線開業による首都圏からの誘客、バイエリアと内川周辺を一体的に散策するモデルコースの充実 - ウォーキングモデルコース設定・看板・パンフ - 歴史を生かすストリートファニチャーの設置 - 日本高周波鋼業のライトアップで海王丸・大橋・内川へ夜景でつなぐ（周辺企業のライトアップ） - 観光看板の設置
	集客機能	倉庫をリニューアルした商業施設など	内川沿いの倉庫や古民家を改装した商業施設、芸術・文化施設などの導入	- 民間の進出を期待。 - 有効な補助の検討
	集客機能	空き家利用による内川周辺の活性化	①賃貸店舗のあっせん ②短・中期滞在型賃貸ハウスのあっせん ③無料休憩所の設置 ④地場の魚を使った飲食店誘致	①賃貸店舗のあっせん ②短・中期滞在型賃貸ハウスのあっせん ③無料休憩所の設置 ④地場の魚を使った飲食店誘致
	集客機能	新たなサービス	観光客に対応したベロタクシー（自転車）や電動カートなど新たなサービスの提供	観光客に対応したベロタクシー（自転車）や電動カートなど新たなサービスの提供
	サポート機能	観光面	生涯学習と一体となった観光案内及び職人の技術活用や高齢者の経験・技術の活用など	観光協会と連携し、引き続き支援
	サポート機能	維持管理面	環境教育と一体となった緑化活動・清掃活動や高齢者の活動の場の提供	活動の拡大、個人やグループだけでなく地域の事業者の協力を得る。
	集客機能	クロスベイ新湊	飲食機能や観光案内、コンベンションホールを利用したeスポーツの大会や豊かな食材を利用したイベント等の開催	旧射水市役所新湊庁舎跡地に建設（令和2年7月下旬竣工予定）
	交通機能	公共交通ターミナル	- 新幹線駅や小杉駅を結ぶバスルートの開設 - 長距離バスの誘致 - コミュニティバスや民間バスとの結節点としての役割	新幹線駅、小杉駅、クロスベイ新湊を結ぶ観光周遊バスの運行
	情報提供機能	観光アプリ	観光拠点や商店街等を紹介するアプリの開発	新湊まちづくり協議会の各部会の連携により、システムを構築
	宿泊機能	ホテルなど	クロスベイ新湊と連携を図るホテルの誘致	クロスベイ新湊と連携を図るホテルの誘致
全 域	レクリエーション機能	レンタサイクル	楽しみながらの移動を可能にするレンタサイクルの充実	- 新湊大橋と内川周辺を一体に捉えるため利便性の向上に努める。電動アシスト付の増設など整備充実図る。 - バイエリアサイクリングコースの設定 - 波返しを利用した自転車専用道
	レクリエーション機能	釣りを推進した賑わいづくり	既存の釣り可能場所の活用等による賑わいづくりと釣り文化の醸成	既存の釣り可能場所の活用等による賑わいづくりと釣り文化の醸成
	交通機能	遊歩道・案内板	- 街なかの資源を結び、休憩スポットを配置した、歩きたくなる遊歩道を整備 - 的確な誘導を行う案内標識を整備	- 街なかの資源を結び、休憩スポットを配置した、歩きたくなる遊歩道を整備 - 的確な誘導を行う案内標識を整備
	交通機能	内川周辺駐車場	自動車でのアクセス性を向上させる駐車場整備	- 休日の銀行駐車場利用 - 当面空き地を活用した小駐車場確保
	交通機能	共通・企画乗車券	多様な移動手段と市街地での食事を組み合わせた共通・企画乗車券の販売	ドラえもんトラムの集客力利用し、まちなかイベント実施
	交通機能	公共交通	コミュニティバスの効率化と利用促進	コミバスの路線再編

7 方策の実現化に向けて

7-1 実現化に向けた考慮事項

方策の実現に向け、今後考慮すべき事項について、以下のとおり整理した。

また、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である SDGs*を推進するため、SDGs の 17 の目標のうち、どの視点をもって取り組むかをロゴマークで示した。

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
貧困	飢餓	健康福祉	教育	ジェンダー	水・衛生	エネルギー	経済成長	産業基盤	平等	持続可能都市	消費生産	気候変動	海洋資源	自然保護	平和公正	パートナーシップ

(1) ソフト事業の展開

本方策に位置付けたハード整備は、あくまで舞台づくりであり、舞台に人が集まり舞台を有効に活用してこそ、まちの活性化につながることから、整備された施設や新湊固有の資源を最大限に活用したソフト事業を積極的に展開することが重要である。

また、近年急速な進歩を遂げている AI や IoT など、ICT（情報通信技術）をはじめとする新しい技術を積極的に活用し、情報の共有や時間・場所にとらわれないサービスの提供など、より効率的・効果的な事業の展開に努めることが求められる。

例：既存イベントと新規イベントを組み合わせた通年的なイベント開催

観光ガイドマップやアプリなどによる情報発信

地域に愛着や誇りを持つ市民による情報発信

市内の高等教育機関との連携、学生のまちづくりへの参画促進

既存施設の積極的な利活用及び遊休地の活用策の公募

新湊の資源のブランド化による他地域との差別化

(2) 国際化への対応

本方策では、臨海部の土地利用活用方策の共通テーマとして「環日本海の中の射水」を掲げ、国内外の人・文化の結節点の形成を目指しており、その一環として外国人にもやさしいまちづくり（道路標識や案内板への外国語併記や絵文字（ピクトグラム）併記、外国語での情報発信）が求められている。

また、海竜町については、持続可能な資源循環型社会の実現に向けた環日本海における拠点形成を目指す上で、対岸諸国からの技術研修員の受入れを推進するなど、環日本海諸国との連携を推進することが必要である。

(3) 少子高齢化への対応

少子高齢化社会の到来を踏まえ、施設の整備に当たっては、バリアフリーに配慮するなど様々な人が使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）を採用するとともに、増加傾向にある高齢者の需要に合致した機能（施設）の配置が求められる。

一方、深刻な社会問題となっている少子化への対応として、子ども連れの来訪者が快適に過ごすことのできる機能配置についても配慮が必要である。

* SDGs(持続可能な開発目標)：SDGs エスディージーズ(Sustainable Development Goals)とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール(目標)及び 169 のターゲットから構成される。

(4) 各種計画との連携



① 環境問題への対応

環境問題は行政、事業者、市民にとって避けて通ることのできない21世紀における最重要課題の1つである。従って今後の環境対策には、公害防止や自然環境の保護だけでなく、都市活動や社会経済のシステムを持続可能な資源循環型のシステムに転換していくことが求められる。

この様な社会情勢を踏まえ、本方策ではクリーンエネルギーの活用を始めとする様々な事業を提案している。今後はこれらの事業の実現に向け、第2次射水市環境基本計画（平成30年3月策定）に基づき、市民や事業者と連携して、環境にやさしい地域を構築していく必要がある。



② 景観の保全・形成への対応

本地域における集客資源の中核の一つは帆船海王丸、新湊大橋、立山連峰、内川などが織り成す美しい「景観」である。従って、今後方策を実現していく過程においては、新湊大橋の景観整備に係る方針（下記参照）を踏まえながら、美しく個性ある景観を保全・形成していくとともに、新湊大橋の景観を最大限に活かし、ベイエリアの至る所から新湊大橋を眺めることができるような景観づくりを目指すことが重要である。

また、内川に代表されるみなとまち新湊の歴史ある風景については令和2年に旧新湊庁舎跡地を利用した公共交通ターミナルやクロスベイ新湊の供用が開始されることを踏まえ、内川周辺地区における賑わい創出に向けた施策や歴史ある街並みの保全・活用に向けた方向性を検討するとともに、賑わい創出に向けた施策に取り組んでいく必要がある。

なお、ベイエリアの景観の保全・形成に当たっては、地域住民の意見を十分に踏まえ、住民の積極的な参加が得られる実効性のある取組とすることが求められる。

新湊大橋の景観整備に係る方針

【全体コンセプト】

一伏木富山港の古き良き伝統を踏まえ、21世紀の環日本海地域の新たな象徴、
交流と安らぎの場を創出する橋梁デザイナー

【主橋梁部コンセプト】

海上に浮かぶ空中歩廊 ～海と風と歴史を感じる自転車歩行者道～

【アプローチ部コンセプト】

海風そよぐ交流の門 ～「まち」と「新たなウォーターフロント」をつなぐ～



③ 総合的な交通体系の確立

本市を訪れる観光客が公共交通で容易に市内を周遊できる環境を整えることが必要であり、将来にわたり持続可能な公共交通の実現を図るため策定する「射水市地域公共交通網形成計画」（令和2年3月策定）の中で、観光分野との連携・役割分担を図ることとし、鉄道駅（新高岡駅等の新幹線駅やあいの風とやま鉄道小杉駅等）とクロスベイ新湊やベイエリアを結ぶ観光路線の新設・強化について、コミュニティバス等他の路線との調整を図りながら取り組む。

7－2 実現化の方針

本方策を着実に実現していくためには、住民の参画意識を高めることが大切であり、とりわけ次世代を担う若者や移住者の視点やアイデアは、これからのまちづくりにとって必要かつ重視すべきポテンシャルを秘めていると捉えている。引き続き、住民や事業者、関係団体と連携・協力していくことで、将来を見据えたみなとまちづくりの実現に向け、取り組みを展開していく。

今後、本方策については、各種計画と連携を図りながら実現化に向けて取り組むものとし、状況に応じて見直しを検討するものとする。